

移動可能な 浄水場

断水時も、インフラが届かない場所でも水を作る。
水道水レベルの水質を確保する、可搬式浄水装置。

最大処理量
50m³/日

アクアレスキュー
可搬式膜ろ過装置



令和6年能登半島地震でも実際に活躍した同製品。
地震発生4日後には稼働するなど実績を誇る

緊急対応だけでなく
日常利用にもフィット

浄水能力は日量50m³。災害時の一人当たりの生活用水は1日約30ℓとされており、計算すると1600人以上に対応できる想定だ。電源仕様に

点が強みとなっている。最短で1〜3日で設置できる機動性も強みで、素早く立ち上げて稼働を開始できる。実際、令和6年の能登半島地震ではアクアレスキューが現地に導入され、発生4日後には入浴用の水を供給、他にも洗濯用水として活用された実績もある。しかも、装置本体は700mmの片開き扉を通してコンパクトサイズ。ほとんど浄水場並みの性能を持ちながら設置場所の制限が少なく、柔軟に運用できる

地震・台風・豪雨など自然災害が頻発する日本では、今や防災対策が必須。モバイルバッテリーや大容量ポータブル電源など停電に備える意識は広がっているが、飲用水については有効な策が見つからないのが現実だ。特に長期の断水を想定した備蓄となると、一般家庭に必要な水量を確保するのは現実的に難しいため、地域や組織単位で対策を考えたいところだが……。

も工夫があり、家庭用のAC100Vコンセントで稼働できる設計。停電時も小型発電機があれば対応可能で、災害現場での稼働性が高い。加えて、運転から洗浄までの工程の自動化で、専門知識がなくても扱えるのも大きな利点。人手や管理の負担を増やさないという設計思想は、現場での信頼獲得に繋がることだろう。

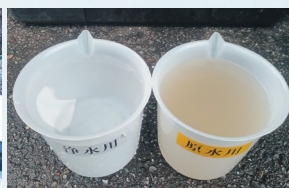
この春に株式会社清水合金製作所から社名を変更した株式会社キッツエスジーエス。同社は、主にバルブや流体機器を扱う総合メーカーである株式会社キッツのグループ会社だ。今年からグループ内で新たに導入された市場別ビジネスユニット制に基づき、環境ソリューション分野を担う中核企業に位置づけられている。

同社は、水に関する課題解決において、取水から排水までを一貫して支援できる体制を構築。開発から設計・製造・設置工事・保守まで、自社で対応できる体制を整えている。また、導入後は専門知識と実務経験の両方を備えたスタッフが現場に入り、きめ細かなサポートを提供することも可能。導入にあたり、用途に応じてレンタルにも対応しているというからすごい。こうした体制が評価され、これまでは公共案件が中心だった導入先も最近では民間施設へと拡大し、工場やホテルからの引き合いも増えるなど活用の幅は広がっているそうだ。

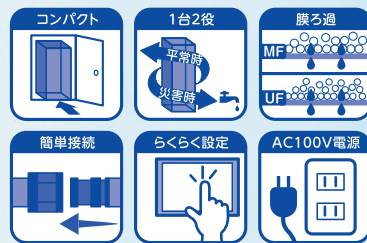
可搬式でありながら自立型のアクアレスキューは、災害時だけでなく平時のインフラ補完としても有効。必要な場所に設置して日常使いし、緊急時にはそのまま移動して使うという「移動できる浄水場」は、想像以上に大きな安心感を届けてくれる。



片扉から持ち込めるため、現場や避難所でも柔軟対応可能



濁った原水から、透明で安心な処理水へ



SGS 株式会社 キッツエスジーエス

滋賀県彦根市東沼波町298 TEL.0749-23-3131
<https://www.kitzsgs.co.jp/>